

■金原明善 実業家, 社会事業家。天竜川治水, 磐田植林, 三方原開墾, 出獄人保護など, 社会のために一生を捧げた。

鼠小僧磔・・・1832＝ 遠江国の幕府直轄地安間村(浜松市)で, 金原久平・志賀の長男に生まれる。幼名弥一郎。

金原家は代々九右衛門を名乗る大地主で名主を務め, 8代目の祖父が現役のなか, 才能あふれ勤儉力行の父のもと, 健康害し出産後は病臥することの多くも篤実な母や母に代って養育してくれた祖母らの感化を受けて育つ。

大塩平八郎乱1837＝ 5歳：

蛮社の獄・・・1839＝ 7歳：妹が誕生。寺子屋が遠かったため, この頃ようやく通い始める。

天保改革始・・・1841＝ 9歳：

順天堂始・・・1843＝11歳：弟が誕生。

阿部正弘首座1845＝13歳：この年, 安間村が旗本松平正孝の知行地となり, 父はその代官となる。突然生死さまよう重病に罹り, 孝明天皇・・・1846＝14歳：なお歩行困難で頭髮は抜け精神もなえたままで, 以後, 薬や灸・按摩により療養,

末弟を出産するも夭折してまもなく, 母から自分の従姉妹の沢が後妻に来ること, その娘玉城と結婚すべきと遺言され死去して後, 国定忠治磔・・・1850＝18歳：ようやく回復し, 家業を手伝えるようになるとともに, 無私と利他の生き方に目覚める。

銀行のような質屋すなわち金融業に力を入れ, 酒造業の経営を引き受けた父の助手を務めて手腕磨き,

ペリー来航・・・1853＝21歳：

安政大地震・・・1855＝23歳：母の遺言通り, 玉城と結婚。松平家の代官として多忙になった父から, 名主役を引継ぎ, まもなく長男明徳が誕生,

蕃書調所・・・1857＝25歳：さらに父の代理として初めて江戸に赴き, 松平家の家政整理に取り組み,

五ヶ国条約・・・1858＝26歳：再び, 松平家の招集に応じて, 家政整理を成就, その功により中小姓に取立てられる。

安政の大獄・・・1859＝27歳：

桜田門外変・・・1860＝28歳：

この間, 幕末の江戸情勢を肌で感じるとともに, 儒家中沢雷城のもとに通って勉学。

禁門の変・・・1864＝32歳：父が親戚と共同出資で横浜に開いた貿易店(遠江屋)の経営に従事するが,

薩長同盟・・・1866＝34歳：経営巡って親戚と対立するうち, 父が中風で倒れてしまったため, 全責任負って奮闘するも,

大政奉還・・・1867＝35歳：ついに破産となるが, 人柄に同情した名主の配慮で相続人が現れ, その次男喜助を養子に引き継ぎ処理。

明治維新・・・1868＝36歳：*維新となり, 松平家の存続運動のため上洛するうち, 天竜川で, 重病から回復した時の大洪水以来, 五度目になる大洪水が発生するや, 太政官民政局にその治水についても陳情するも埒明かず, 管轄の三河裁判所に回された後, 天竜川水防掛に命じられた藩郡奉行とともに, 奮闘するうち, 天皇の東京への遷幸への通り道となることから, 国も事業に乗り出し, 派遣されてきた官僚二人のもと現場主任に任じられ, 無事完了させたことから, 名字帯刀を許され, 以後, 生涯治水事業に関わって行くことになる。この間, 父は死去。

初の日刊新聞1870＝38歳：次男喜一が誕生。新政府から地方役人徴用の話があるも, 継母の病気のため固辞。

廃藩置県・・・1871＝39歳：浜松県(のち静岡県)から, 第1大区4小区の区長に続いて,

学問のすすめ1872＝40歳：天竜川普請専務を命ぜられ,

明治6年政変 1873＝41歳：明善と改名。さらに, 資産金御用掛, 開墾御用掛, 三方原百里園副園長,

佐賀の乱・・・1874＝42歳：地租改正惣代人と次々命じられて多忙になるなか, 天竜川堤防会社を設立,

初の民間工場1875＝43歳：治河協力社に改組して, 総裁になるが,

西南戦争・・・1877＝45歳：*西南戦争によって, 政府資金が大幅に削減されて事業が困難になったため, 総裁ポストを廃して自ら社長

になるとともに, 家産一切を売却して果に醸出し, 以後, 同社を監督し治水事業の進展につとめ,

大久保暗殺・・・1878＝46歳：三男が誕生(夭折)。天皇の東海道巡幸に際し, 拝謁という破格の荣誉。協力社付属の水利学校を開校。

・・・1880＝48歳：浜崎巳三郎少年を養子にする。(勸善社)を設立して, 出獄人保護に関与するなど, 社会事業面でも活動,

明治14年政変1881＝49歳：河川改修費が地方税により支弁されることとなり, その事業が縮小され,

下流流域各村との間に紛議を生じたため, 退任を申し出るも許されず,

秩父事件・・・1884＝52歳：協力社の取引先の丸屋銀行が破綻, その整理に取り組むことになり,

内閣発足・・・1885＝53歳：*結局, 治水事業が政府直轄となって, 治河協力社が解散すると, 丸屋銀行の債権回収のために東京日本橋

に設立された東里為替店の経営を引受け, 一家あげて移住, 体制整えた後,

帝国大学始・・・1886＝54歳：県に官林改良委託願を提出し, 天竜川上流瀬尻地方の官有林の植林に着手,

初の対等条約1888＝56歳：静岡県出獄人保護会社を設立。丸屋銀行がついに破産宣告されると, 東里為替店の譲渡を受けて個人経営

帝国憲法発布1889＝57歳：早くも美林と選定され皇室御料林に編入される一方, 天竜運輸・天竜木材株式会社を設立して事業展開,

帝国議会始・・・1890＝58歳：御料局顧問官に任じられる。金原家の家訓も制作。

この間, 金融業によって足元を固めながら, 富士山麓植林・三方ヶ原開墾の端緒を開き, 京都小野組の復興を図って, 井筒屋香油店の基礎も築く。

日清戦争始・・・1894＝62歳：

日清戦争終・・・1895＝63歳：

松隈内閣・・・1896＝64歳：北海道に金原農場を開拓。

八幡製鉄始・・・1897＝65歳：岐阜県林政に参与。御料局長に「造林学校設立趣意書」を提出し,

政党内閣初・・・1898＝66歳：予定より早く760町歩に及ぶ瀬尻植林事業を完了させ,

Bushidou・・・1899＝67歳：東里為替店を発展させた合名会社金原銀行が発足。御料局に返納, 植林事務所に勅使が派遣され,

ピアノ国産化・・・1900＝68歳：金杯と五万円が下賜される。これを元手に造林学校設立しようとしたが, 断念。

この他, 各種の公共事業に関係し,

日露戦争始・・・1904＝72歳：妻玉城が死去。静岡県の「基本造林計画」に賛成し, 所有する山林800町歩を寄付,

日露戦争終・・・1905＝73歳：巳三郎を連れて南満州を視察, 児玉源太郎大将に面会し, 肅親王に拝謁,

韓国反日暴動1907＝75歳：天竜木材株式会社を設立,

アヲキ創刊・・・1908＝76歳：次男が急逝。郷里の村民から懇望されて, 和田村長に就任するが,

伊藤博文暗殺1909＝77歳：辞任。

韓国併合・・・1910＝78歳：大阪朝日新聞の渡辺霞亭による伝記「金原明善翁」が出版される。

明治天皇没・・・1912＝80歳：

大正政変・・・1913＝81歳：

ロシア革命・・・1917＝85歳：金原銀行を株式会社にし, *最後まで, 植林治水事業の現場に足を運んで,

関東大震災・・・1923＝91歳：没した。直前, 特旨をもって従四位に叙され, 勲三等瑞宝章, 紺綬褒章。

三戸岡道夫「金原明善の一生」, 「没年日本史人物事典」, 平凡社百科事典, 「目でみる日本人物百科」,